

Title	21世紀の百貨店像 - 2010年の地方百貨店K社の理想像 -
Sub Title	
Author	佐々木洋子(Sasaki, Youko) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1088号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1088">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1088</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

佐々木 洋子  
(株式会社 岩田屋)

主査 太田 康信  
副査 和田 充夫  
青井 倫一

所属

太田 康信 研究室

## 21世紀の百貨店像

—2010年の地方百貨店K社の理想像—

百貨店業界の現状は、1994年12月現在で32ヶ月連続売上高前年比マイナスという経営指標にも見られるように、苦しい状態が続いている。その状況は、バブル崩壊後の不況期の影響のみならず、消費者ニーズの多様化、社会的価値観の変化、経営体質等構造的な問題が絡み合いながら、「時代適応業」としての存在価値を脅かされつつあると言っても過言ではないと言える。

本稿では、そのような百貨店の抱える問題を解析した上で、21世紀(2010年)の社会及び流通環境を予測し、その新しい環境の中で、百貨店が主導的立場を握る為の将来像を模索したものである。特に、本稿では地方百貨店K社を取り上げ、K社の具体的戦略像の可能性を提示した。

まず第2章では、財務的側面からK社及び百貨店が抱える問題点を分析した。その結果、投資効率の悪さ、固定費の上昇による高コスト構造の実態が明らかとなった。

第3章以降では、21世紀へ向けての中長期的な社会環境変化(女性の社会進出・高齢化・情報化・国際化・サービス化)の趨勢を予測した上で、将来像の一つの可能性を提示した。それが「マルチメディアを利用した電子ショッピング」である。未だ不確実性の高い分野ではあるが、今後百貨店が取り組む価値のある像と言えた。

そして、第5章においては、上記のコンセプトを取り入れた具体的なK社の戦略像「商圏ドミナント」像を立案し、そのシミュレーションを行った。シミュレーションより、百貨店変革には2方向性あり、成長性が高く、全く経営構造が異なる業態に進出するか、強みに特化すると同時にオペレーションの大改善を行い、収益構造を変える等の示唆が得られた。そして、今回のK社の戦略像立案では、非常に実現可能性及び収益性の高い戦略案が提示された。